

古文 敬語これだけ100

迷ったら、まずこの100個。

敬語は「種類」「訳し方」「誰への敬意か」の3つが分かれば、ほとんど解けます。

使い方 右の空欄に答えだけ書きます。1問10秒。

全部で100問。第1章だけでも、まず一周してください。

この100個の選び方 誰でも古典塾の無料ドリルから、入試・定期テストで実際によく問われる形だけを選び直しました。

種類見分け 種類を答えよ。

1 中宮、昔のことを、おぼしめさせたまふ。

2 我れ、御いとまたまはる。

3 「これは尊し」と申したまふ。

4 「我れも参り侍りぬ」と申す。

5 「君にまうすべきこと侍り」と言ふ。

6 御前に候ひけり。

7 大納言、御前に候ふ。

8 中宮、御文を奉る。

種類と敬意の対象を答えよ。

9 中宮、御文奉りたまふ。

種類と敬意の対象を答えよ。

10 さぶらふ人召せ。

11 「侍に候ふは誰そ」と仰す。

12 大臣、帝に文を奉りたまふ。

敬意の方向（誰から誰へ）を答えよ。

13 中宮、御文を御覧じたまふ。

敬意の方向を答えよ。

14 「我れ、参り侍り」と申す。

敬意の方向を答えよ。

訳し方 現代語訳せよ。

15 院、大殿籠る。

16 帝、御文書かせたまふ。

17 御文を奉る。

18 「これは尊し」と申す。

19 我れも参り侍り。

20 中宮、御文を御覧ず。

21 御所に参る。

22 法皇、熊野へ御幸あり。

23 君に仕うまつる。

24 上、仰せらる。

25 大納言、御前に候ふ。

26 帝、御物の怪に苦しませたまふ。

敬意の方向 敬意の方向を答えよ。

27 (地の文) 帝、御文書かせたまふ。

28 (地の文) 中宮、御髪を梳らせたまふ。

29 (会話文中の丁寧) 「いま参り候ふ」

30 (地の文) 中宮、御覧ず。

31 (地の文) 法皇、御使ひを遣はす。

32 (会話文) 「我れも参らんと申し侍り」

33 (手紙文) 「君のおほせのこと、承りて侍り」

34 (会話文) 「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

35 (地の文) 院、御文を遣はす。

36 (地の文) 「まかり出で侍りなむ」と申しけり。

37 (地の文) 入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

38 (地の文) 大臣、御文を奉る。

給ふ 次の傍線部「給ふ」を識別せよ。

39 春宮（とうぐう）、文読み給ふ。

40 思ひ給ふれど、口には出ださず。
次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

41 帝、御衣（おんぞ）を脱ぎて給ふ。

42 入道殿、双六（すごろく）打ち給ふ。

43 心のうちに思ひ給ふれば、いとほし。
次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

44 帝、御手づから杯を給ふ。

45 親王（みこ）、馬に乗り給ふ。

46 見給ふれども、それとも分かず。
次の傍線部「給ふれ」を識別せよ。

47 大臣、われに位を給ふ。

48 主上（うへ）、うなづき給ふ。

49 げに見給ふるに、あはれなり。
次の傍線部「給ふる」を識別せよ。

50 大君、笛を人に給ふ。

参る 次の傍線部「参る」を識別せよ。

51 御几帳（きちやう）のもとに参る。

52 ねんごろに弔（とぶら）ひ参らす。
次の傍線部「参らす」を識別せよ。

53 御箸（はし）とりて御物参る。

54 御消息（せうそこ）を参らせたり。
次の傍線部「参らせ」を識別せよ。

55 法皇（ほふわう）の御所に参る。

56 経（きやう）を読み参らす。
次の傍線部「参らす」を識別せよ。

57 帝、御酒を参る。

58 玉（たま）を参らせけり。
次の傍線部「参らせ」を識別せよ。

奉る 次の傍線部「奉る」を識別せよ。

59 御衣（おんぞ）を脱ぎて奉る。

60 御志（こころざし）深く頼み奉る。

61 御料（れう）の御衣（おんぞ）奉る。

62 御衣（おんぞ）を縫ひて奉る。

63 御衣（おんぞ）ひきかづき奉る。

64 寒ければ、御衣（おんぞ）かさねて奉る。

65 宝物（たからもの）を奉る。

66 御几帳（きちやう）引き寄せ奉りて。

次の傍線部「奉り」を識別せよ。

侍り・候ふ 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

67 鬼ある所となむ人申し侍る。

68 御返事（かへりごと）候ふ。

次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

69 一の谷の軍（いくさ）破れ候ひぬ。

次の傍線部「候ひ」を識別せよ。

70 この程（ほど）は、京に侍り。

71 かやうの事をのみ思ひ侍り。

72 御消息（せうそこ）候ふ。

次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

73 御伴（とも）に参り候ふ。

次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

74 をかしき事も侍りき。

次の傍線部「侍り」を識別せよ。

最高敬語

75 帝、行幸しておはしまして、御覧ず。

次の傍線部「おはしまして」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

76 大納言、中宮に申し給ふ。

次の傍線部「申し給ふ」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

77 中宮、女に琴を弾かせ給ふ。

次の傍線部「弾かせ給ふ」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

78 中宮、をかしと笑はせ給ふ。

次の傍線部「笑はせ給ふ」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

79 中將、ただ今こそおはすれ。

次の傍線部「おはす」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

80 帝、内裏にはおはしませず。

次の傍線部「おはしませず」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

81 女御、帝に御琴を奉り給ふ。

次の傍線部「奉り給ふ」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

82 帝、臣下に詔を書かせ給ふ。

次の傍線部「書かせ給ふ」は、ア～オのどれか。

ア 二重尊敬 / イ 単体の最高敬語 / ウ 使役+尊敬 / エ 二方面敬語 /
オ その他の普通の敬語

二方向 次の傍線部「侍り」は、ア～エのどれか。

83 后、帝の御前に参り給ふ。

次の傍線部「参り給ふ」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲+尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ
丁寧語

84 大臣、座を立ち給ふ。

次の傍線部「立ち給ふ」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

85 翁、帝に玉の枝を奉る。

次の傍線部「奉る」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

86 「かかる事も、世には侍り」と語る。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

87 中納言、帝に事の由を申し給ふ。

次の傍線部「申し給ふ」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

88 院、来し方をあはれと思す。

次の傍線部「思す」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

89 翁、姫に思ふことを申す。

次の傍線部「申す」は、ア～エのどれか。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

90 「げに、ことわりに侍り」と申しけり。

ア 二方向敬語（謙譲＋尊敬） / イ 尊敬語のみ / ウ 謙譲語のみ / エ 丁寧語

絶対敬語 次の傍線部「啓す」は、ア～エのどれか。

91 女房、東宮に事のよしを啓す。

ア 奏す（絶対敬語＝申し上げる） / イ 啓す（絶対敬語＝申し上げる） /
ウ 相对敬語（申す・聞こゆ・奉る 等） / エ 奏す（＝楽器を演奏する）

92 大臣、世の有様を帝に奏す。

次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

ア 奏す（絶対敬語＝申し上げる） / イ 啓す（絶対敬語＝申し上げる） /
ウ 相对敬語（申す・聞こゆ・奉る 等） / エ 奏す（＝楽器を演奏する）

93 笛をいとめでたく奏す。

次の傍線部「奏す」は、ア～エのどれか。

ア 奏す（絶対敬語＝申し上げる） / イ 啓す（絶対敬語＝申し上げる） /
ウ 相对敬語（申す・聞こゆ・奉る 等） / エ 奏す（＝楽器を演奏する）

94 女、男に忍びて聞こゆ。

次の傍線部「聞こゆ」は、ア～エのどれか。

ア 奏す（絶対敬語＝申し上げる） / イ 啓す（絶対敬語＝申し上げる） /
ウ 相对敬語（申す・聞こゆ・奉る 等） / エ 奏す（＝楽器を演奏する）

95 大夫、皇后に賀の言葉を啓す。

ア 奏す（絶対敬語＝申し上げる）／イ 啓す（絶対敬語＝申し上げる）／
ウ 相対敬語（申す・聞こゆ・奉る 等）／エ 奏す（＝楽器を 演奏する）

自尊敬語 次の傍線部「御覧ず」は、ア～ウのどれか。

96 〔地の文〕女房、御前に参る。

次の傍線部「参る」は、ア～ウのどれか。

ア 自尊敬語／イ 通常の尊敬語／ウ 謙譲語

97 〔地の文〕院、池の汀を御覧ず。

ア 自尊敬語／イ 通常の尊敬語／ウ 謙譲語

98 〔帝の独白〕「われ、この文を御覧ず」

ア 自尊敬語／イ 通常の尊敬語／ウ 謙譲語

99 〔臣下が〕臣、わびを申す。

次の傍線部「申す」は、ア～ウのどれか。

ア 自尊敬語／イ 通常の尊敬語／ウ 謙譲語

100 〔地の文〕帝、楽人を召す。

次の傍線部「召す」は、ア～ウのどれか。

ア 自尊敬語／イ 通常の尊敬語／ウ 謙譲語
